

事業拡大のためのキャッシュフロー戦略レポート

～ EBITDA最大化と資金持続性の両立を確認する30年試算 / 10年標準版～

採用推奨: 防衛余力・返済余力・損益分岐の3点で成立

前提条件サマリー

入力期間 / 表示期間	30年 / 10年表示
初期資金	500万
年商	3,000万
売上成長率	3.0%
変動費率 / 変動費インフレ	30.0% / 2.0%
固定費 / 固定費インフレ	400万 / 2.0%
実効税率	30.0%
従業員数 / 昇給率	3人 / 2.0%
人件費総額	1,200万

設備投資

機械装置 1,000万 / 6年 / 1期
社用車 500万 / 6年 / 1期 / 新車
社用車 500万 / 6年 / 5期 / 新車

借入

借入金 3,000万 / 1期 / 20年 / 1.5% /
元金均等

キャッシュアウト

設定なし

人件費内訳

給与 600万 / 50%
社保・税 180万 / 15%
役員報酬 420万 / 35%

初年度サマリー

売上成長額

90万

年商 × 売上成長率

次期年商目安

3,090万

年商 + 売上成長額

変動費額

900万

年商 × 変動費率

粗利

2,100万

年商 - 変動費額

EBITDA概算

500万

粗利 - 固定費 - 人件費

概算税額

75万

営業利益概算 × 実効税率

このレポートの位置づけ

設備投資・借入返済・安定化までを確認する標準表示です。10年表示は標準版です。投資判断・返済余力・安定化までを最も見やすく確認できます。

KPIページ

このページの見方

10年表示は標準版です。投資判断・返済余力・安定化までを最も見やすく確認できます。このページでは、まず固定費負担と損益分岐を確認し、そのうえで資金余力・返済余力・投資回収を見ます。損益分岐は EBITDA 基準で算定し、固定費負担 = 固定費 + 人件費で統一しています。

年間固定費負担
1,600万
固定費 + 人件費

月間固定費負担
133万
固定費 + 人件費 ÷ 12

月間変動費
75万
初年度売上ベース

限界利益率
70.0%
1 - 変動費率

月間損益分岐売上
190万
差額 60万

年間損益分岐売上
2,286万
差額 714万

安全余裕率
23.8%
売上高と損益分岐の差

最小DSCR
2.56x
返済余力あり

最低資金残高
2,244万
資金余力あり

最終残高
4,220万
Safety Margin 9.0か月

年間利息総額
349万
最大年間利息 45万

累計EBITDA
5,520万
Bank Score 100

初期防衛資金
750万
期首の防衛ライン

最終年防衛資金
896万
表示最終期の防衛ライン

最低資金との差額
1,494万
防衛ラインを上回る最小差

防衛余力判定
維持
最低資金が防衛ラインを維持

収益構造

固定費負担は年間1,600万、限界利益率は70.0%です。売上成長より先に、固定費と人件費を吸収できる粗利構造かを見ます。

損益分岐 / 資金余力

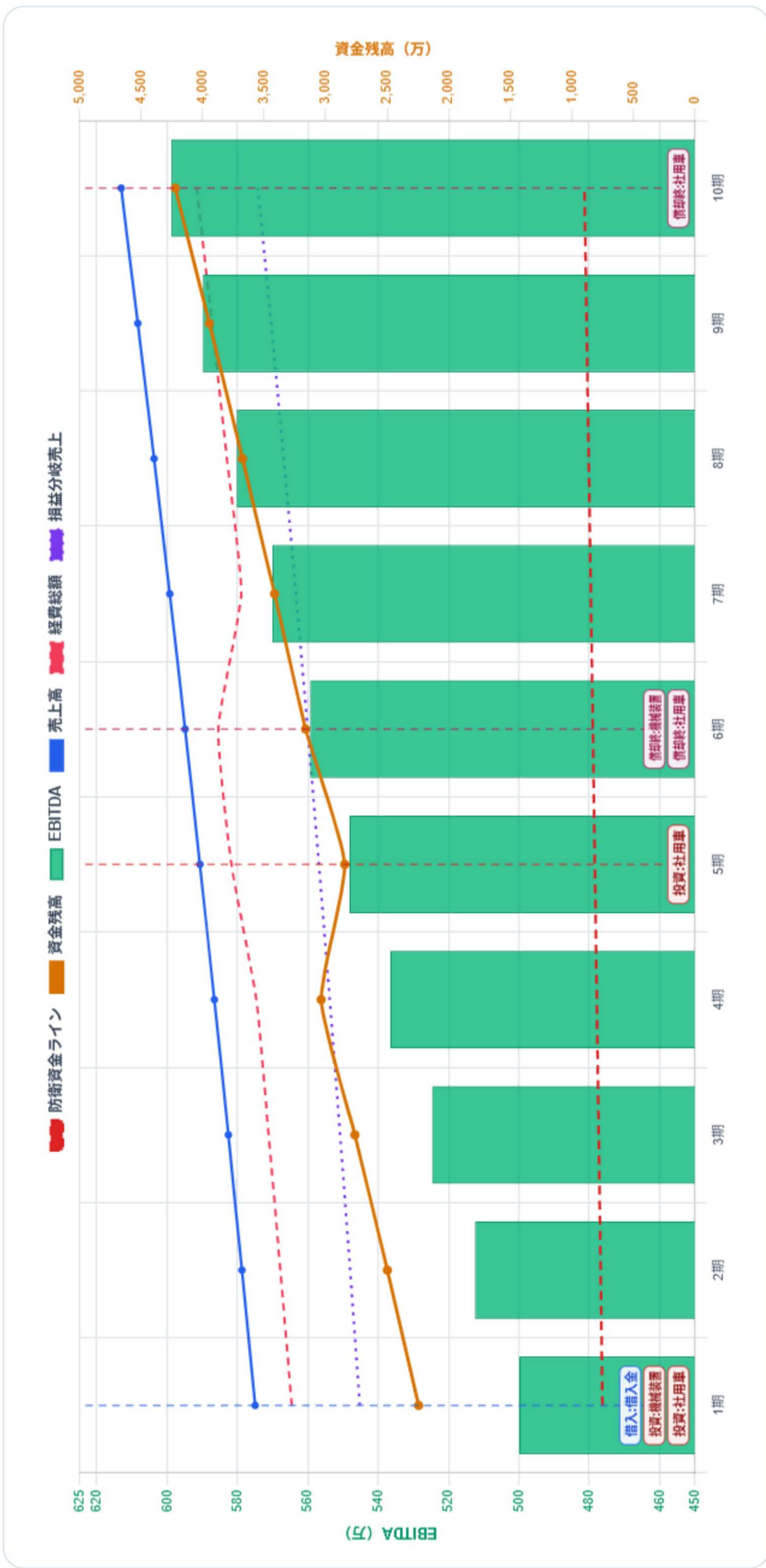
年間損益分岐売上は2,286万です。現在売上との差は714万、安全余裕率は23.8%です。最低資金との差額は1,494万です。

返済余力

最小DSCR 2.56xで返済余力ありです。初期防衛資金750万 → 最終年896万の上昇も併せて確認してください。

全期間推移グラフ

10年表示は標準版です。投資判断・返済余力・安定化までを最も見やすく確認できます。主役はEBITDA・資金残高・防衛資金ラインです。売上高・経費総額に加え、損益分岐売上を補助線として重ね、借入・償却終了・設備投資・キャッシュアウトの変化点を優先表示します。



読み方

緑の縦棒で EBITDA の厚み、橙線で資金残高、赤破線で防衛資金ラインを確認します。青線が売上高、赤線が経費総額、紫破線が損益分岐売上です。売上高が紫線を安定的に上回るか、かつ資金残高が防衛ラインを割らないかを同時に見ます。

全期間年次テーパーブル

10年表示は標準版です。投資判断・返済余力・安定化までを最も見やすく確認できます。表示対象期間を一覧化しています。確認用ページとして、売上・固定費負担・EBITDA・元利返済・損益分岐売上・安全余裕率・資金残高を並べ、どの期から安全圏に入るかを追える構成にしています。

期	売上高	固定費負担	EBITDA	減価償却費	利息	元利返済	損益分岐売上	安全余裕率	FCF	残高	労働分配率
1期	3,000万	1,600万	500万	250万	45万	195万	2,286万	23.8%	-1,107万	2,244万	57.1%
2期	3,090万	1,632万	512万	250万	43万	193万	2,352万	23.9%	404万	2,497万	57.1%
3期	3,183万	1,665万	525万	250万	41万	191万	2,420万	24.0%	414万	2,761万	57.0%
4期	3,278万	1,698万	537万	250万	38万	188万	2,491万	24.0%	424万	3,035万	57.0%
5期	3,377万	1,732万	548万	333万	36万	186万	2,565万	24.0%	-41万	2,844万	57.0%
6期	3,478万	1,767万	559万	333万	34万	184万	2,641万	24.0%	468万	3,162万	57.0%
7期	3,582万	1,802万	570万	83万	32万	182万	2,721万	24.0%	402万	3,414万	57.0%
8期	3,690万	1,838万	580万	83万	29万	179万	2,804万	24.0%	411万	3,674万	57.0%
9期	3,800万	1,875万	590万	83万	27万	177万	2,891万	23.9%	419万	3,943万	57.0%
10期	3,914万	1,912万	599万	83万	25万	175万	2,981万	23.8%	427万	4,220万	57.1%

15期を超える場合は左右二段で全期間を表示しています。読む表の役割を優先しつつ、元利返済・損益分岐売上・安全余裕率で、借入・投資後のどの期に安全圏へ入るかを確認できます。

イベント表 + 判断 + 判断 + 次の一手

イベント判断一覧

期	イベント	想定キャッシュアウト	実行後残高	防衛余力	DSCR	判断コメント
1期	設備投資 機軸装置	-	2,244万	9.0か月	2.56x	影響は限定的です。返済余力を維持しており、利息負担も吸収可能です
1期	設備投資 社用車	-	2,244万	9.0か月	2.56x	影響は限定的です。返済余力を維持しており、利息負担も吸収可能です
1期	借入実行 借入金	-	2,244万	9.0か月	2.56x	資金調達期です。返済期間 20年 / 利率 1.5% を前提に、影響は限定的です。返済余力を維持しており、利息負担も吸収可能です
5期	設備投資 社用車	-	2,844万	10.1か月	2.95x	影響は限定的です。返済余力を維持しており、利息負担も吸収可能です
6期	減価償却終了 機軸装置	-	3,162万	10.9か月	3.04x	償却終了で利益構造が変わる期です。更新投資の要否と次の設備投資時期を確認してください
6期	減価償却終了 社用車	-	3,162万	10.9か月	3.04x	償却終了で利益構造が変わる期です。更新投資の要否と次の設備投資時期を確認してください
10期	減価償却終了 社用車	-	4,220万	12.9か月	3.43x	償却終了で利益構造が変わる期です。更新投資の要否と次の設備投資時期を確認してください
20期	借入終了 借入金	-	0万	0.0か月	-	返済終了後の資金厚みを確認してください

結論帯: 採用推奨 / 防衛余力・返済余力・損益分岐の3点で成立

判定ロジックの見方

上段から順に確認します。重要度Aが未達なら、BやCが良くても採用判定は保留です。Aで防衛余力と返済余力、Bで構造持続性、Cで補足説明を整理します。

重要度A

まず上から順に確認。ここが崩れる場合は採用判定を先送りにします。

1,494万

最低資金との差額

防衛維持

期間中の最小差でも防衛ラインを維持。

2.56x

最小DSCR

基準内

1.3倍を下回ると返済余力に注意が必要です。

23.8%

安全余裕率

余裕あり

売上与損益分岐売上の差。固定費吸収余力を示します。

重要度B

Aを満たしたうえで、構造が持続するかの確認する指標です。

1,600万

年間固定費負担

固定監視

固定費 + 人件費。重い場合は売上成長だけで吸収できません。

2,286万

年間損益分岐売上

超過

現在売上との差額 714万。

5,520万

累計HEBITDA

積上可

期間全体で稼げる構造かを確認します。

重要度C

参考指標です。主判定ではありませんが、面談時の補足説明に使います。

349万

年間利息総額

許容

最大年間利息 45万。

57.0%

平均労働分配率

標準圏

人件費依存の強さを確認します。

100

Bank Score

参考

金融機関への説明補助として使います。